

## 04. 『街のテクスチャ』

街でみかけた建物や看板や壁面といった、「あれはナニ?」と気になったものを取り上げていきます。



夕暮れに街を歩いていると、まるでヨーロッパのホテルのような可愛らしい外観の建物を発見。よく見ると「名古屋スイーツ&カフェ専門学校」とのこと。確かに1階にはカフェが併設されていて時々、学生さんたちが作ったケーキなどをお値打ちに販売していて人気だとの情報も。詳しくは学校のSNSなどをご覧ください。

## 05. しんみち・採集記

安田印刷工業の近くでみつけたグルメや商品などを紹介していきます。今回はお蕎麦屋さんです。



のど越しの良い蕎麦と濃厚な出汁が特徴で、ボリューム満点ながら非常にリーズナブル。特に250円の追加でおにぎりや卵焼きが付くセットは人気で、ランチで利用される方のほとんどが注文されています。写真のざるそばは、650円と超お値打ちです。

そば処 甚家【営業時間：11:30~21:30・日祝日休業】  
名古屋市西区新道 1-21-17（浅間町駅出口3から徒歩約6分）

## 06. Tomo's TALK 代表取締役社長 安田 智雄のコラム

# Overview



私たちの会社の経営理念は「球角球」という言葉に表されています。この言葉は、小さな丸が多くの角を生み出して成長する様子を象徴しており、私たち自身や社会も同じように、絶えず角を増やしながら成長していくべきだと私は信じています。人生も同様に、年を重ねること自体が自然な流れではありませんが、それに伴う成長が伴っているかどうか重要です。具体的には、社会的な地位や収入、知識や経験といった側面でステージを上げていくことが、豊かな人生を築く鍵となります。

私たちの会社では、毎年自分にとっての10大ニュースを振り返り、ランキング形式で整理する仕組みを持っています。このプロセスによって、自分の成長を客観的に振り返り、良いことも悪いことも含めて自分の人生を見直せるのです。今年度も2ヶ月が過ぎ、多くの出来事がありました。この振り返りの習慣が私たちをより高いステージへと導いてくれると確信しています。こうして自らの成長を意識することこそが、最終的に自分が幸せな人生を歩んだと言える道だと私は信じているのです。



お客様の思いを伝えることがYASUDAの使命です。

2026年5月末日 発行  
発行者:安田 智雄  
発行所:〒451-0043  
名古屋市西区新道2丁目13番10号  
安田印刷工業株式会社  
TEL.052-533-0088  
FAX.052-571-1200

SNS・HPは  
こちらから



SDGs宣言企業を  
応援いたします。

安田印刷工業がお手伝いいたします

各種印刷物からWeb、広告、販促物などお客様の思いを伝えることならお気軽にご相談ください。

【印刷物一例】名刺/DM/チラシ/ポスター/冊子/カタログ/リーフレット/POP UP/のぼり/懸垂幕/横断幕/パッケージ etc.

【経営理念】『球角球』お客さまの要望に応え 自らの成長を志し お客さまを創造し続ける

YASUDA  
PRINTING CO., LTD.

より良い印刷のためにできること

# SOUZOU

June 2026

Vol.

# 61

TAKE FREE

01. Print of Creative  
白い紙にその色を紡ぐまで

02. Movie's EYE  
「プラダを着た悪魔2」

03. 今月の推し紙

04. 街のテクスチャ

05. しんみち・採集記

06. Tomo's TALK Overview

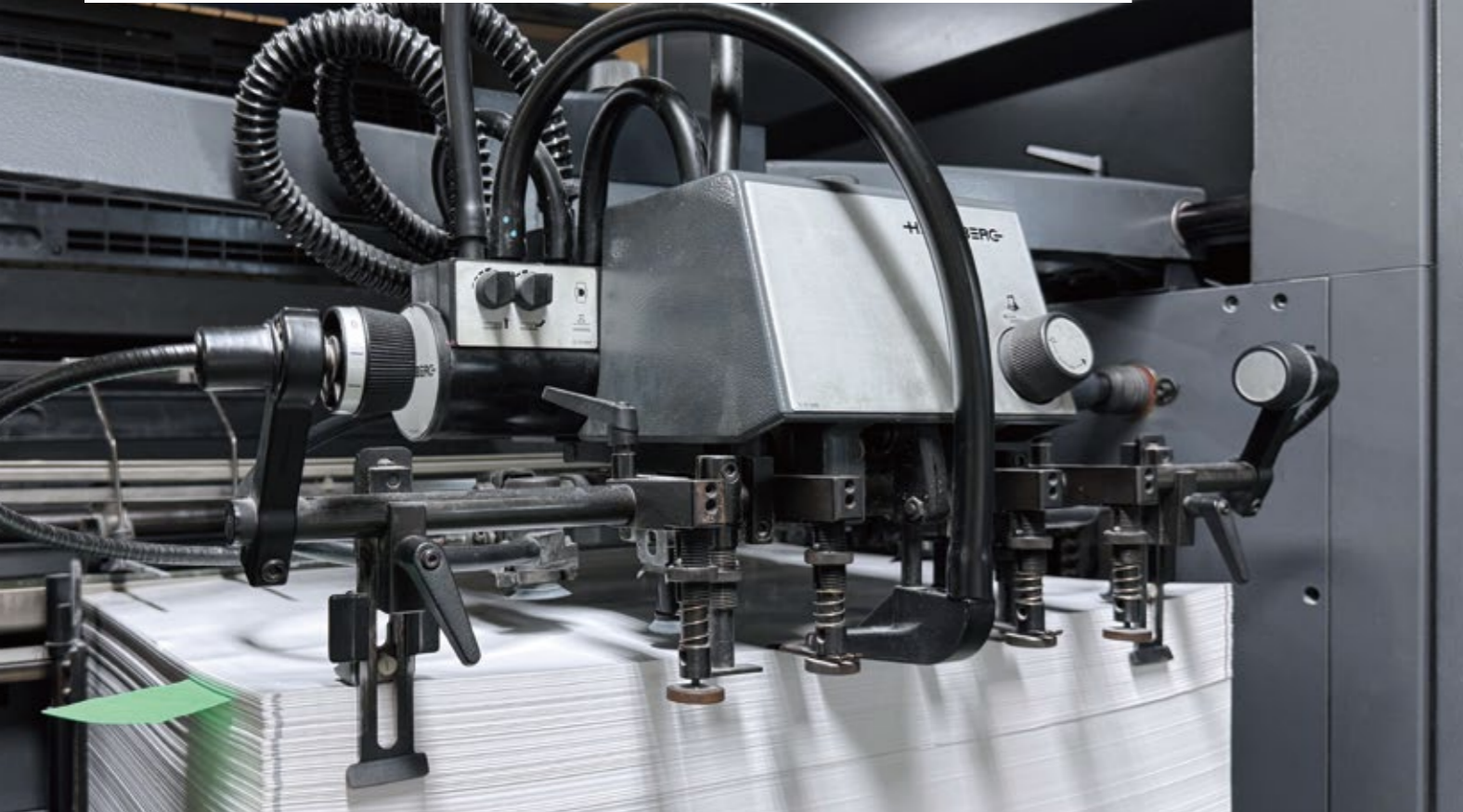
Yasuda Printing Co.,Ltd

# 01. Print of Creative

現場で聞きたいいろいろなお話

## 白い紙にその色を紡ぐまで

前回で印刷は、「アナログな科学反応です」とお話を伺いました。今回はそのアナログな作業を深掘りしてもう少し具体的に聞いて見たいと思います。



現場の方は「当たり前のことをやるだけ」とおっしゃいます。でも、その「当たり前」に至るまでのブラックボックスを、今日はもう少し細解かせてください。

そうですね。でも、一般の方はボタンを押せばすぐに印刷物ができると思っているかもしれませんが、実は印刷機に紙を積んでからが勝負なんです。そもそも、紙がスムーズに通らないと仕事にならない。私たちにとって「印刷機に紙をスムーズに通すこと」は最初にして最大の関門なんです。

え、そこからですか？ 紙なんて勝手に機械に入っていくイメージですが……。

それが甘くないんですよ(笑)。空気の乾燥した時期は静電気でくっつき、紙の質によっては「反り(カール)」も出たりします。だから、まず積まれた紙をパラパラと捌いて空気を入れ

てあげなければいけない。これを怠ると、給紙タイミングエラーが起きるんだ。うちはコンプレッサーのエアで紙を制御しているんだけど、サッカーヘッドという給紙する吸盤のような機械の角度やエアの強さを、紙の厚さや季節に合わせてミリ単位で調整する。この「エアの加減」こそが、経験の差が出る最初のポイントだね。

まさに「準備が全て」ですね。次に、あの鮮やかなインキの調整について教えてもらえますか？

インキを載せるローラーには適正量が必要で、印刷面積が少なくても一定量を保有させておかないと安定しないんですよ。今はデータでインキの出る量はインキキーである程度は自動に制御されますけど、最後はやっぱり人間の感覚ですね。最初の20枚くらいで「今日の色の傾向」を掴んで、濃度計という数値の

裏付と、最後は自分の目で「正解の色」へ最短距離で持っていく。特に小ロットの仕事ほど、一発で決める集中力が求められるんですよ。



■サッカーヘッドに吸い付けられて紙が持ち上がる  
手前のノズルからエアが出て紙のはがれをよくしている



■モニターに映る色と印刷で表現される色には違いがあります。この差をいかに縮めるのかも大きな課題と言えます。

なるほど。あと、水についても驚きました。水道管から直接引いているわけじゃないんですね。

水質まで管理されているとは……。そうしてようやく、1枚の印刷物が生まれるんですね。

水温10度の水槽から循環させているんですよ。機械は高速回転すると熱を持つから、常に冷やしてあげなきゃいけません。面白いことに、地域によって水の「硬度」が違ったりするから、わざわざメーカーに頼んで定期的にうちの水質を検査してもらっています。この水とインキが絶妙に混ざり合う「適正乳化」の状態、仕上がりの艶が結構左右されたりします。

いや、刷り上がってからもまだまだ気が抜けないんですよ。紙は水を吸うと膨張しますよね。これは「ファンアウト」と言って、排紙される手前の部分は乾燥気味でも、後からくる部分が湿気を帯びて紙の面積が若干広がってきたりします。4色の色が1ミクロンのズレもなく重なり続けるように監視し続けます。さらに、積み重なった紙同士でインキが写らないよう、乾燥状態にも神経を使うんです。特に何千枚と重なれば、

デリバリーの紙揃え状態が良くないと下の紙に色がるリスクも高まります。あと最後に、紙を運ぶ時も指の跡をつけないように。特に表紙なんかにはわずかな傷や凹みでもついたら、それこそこれまでの工程がすべて無駄になってしまいますからね。最後まで指先に神経を集中させて、ようやく「完成」と言えるんです。

そうした気の遠くなるような「準備」を経て、ようやく1枚の印刷物が生まれるんですね。

まあ、はたから見れば「ただ紙が通ってるだけ」に見えるかもしれませんが、私たちにとっては一瞬も気は抜けないんですよ。さっき言った水やインキのバランスだって、数千枚と回すうちに機械の温度が上がってきて様子が変わってくる。紙は生き物だから、水を吸えば0.1ミリ単位で膨らんで「見当」がズレてくる。それをスピードや水の絞り具合で、走りながら手懐けていくようなイメージです。刷り上がって積み重なっていく紙を眺めながらも、常に「裏書き」の恐怖とは戦っていますからね。もしここでスプレーパウダー(トウモロコシなどから摂れる澱粉質の粉)の散布量調整をミスれば、何千枚という紙が全部ゴミになってしまいます。機械の音の変化に耳を澄ませ、指先でインキの乾きを確認する。僕らにとっての綺麗な一枚は、そんな地味な格闘の果てにあるものなんですよ。

# 02. Movie's EYE

.....「プラダを着た悪魔2」

## 20年経っても色褪せない 不思議な魅力の秘密は？

前作から約20年、ファン待望の続編を鑑賞してきました。授賞式での再会を機に制作が発表された本作ですが、正直なところ「なぜ今さら？」という不安もありました。前作のラストで、アンディがミランダとの決別を選んだからこそ、二人の再会がどう描かれるのか期待と緊張が入り混じるなかでの鑑賞でした。

結論から言えば、その懸念を払拭する見事な仕上がりでした。ミランダの厳しさが和らいだように感じる場面もありましたが、パンフレットを読み監督の意図を知ることによって深く納得しました。監督は長年続編を固辞してきましたが、昨今の出版不況という厳しい現実を前に、「あの二人がこの窮地

をどう切り抜けるか」というテーマを見出したそうです。興味深いのは、前作公開の翌年にiPhoneが誕生したという事実です。デジタル化の荒波に飲まれる業界の20年を背景に据えたことで、物語に圧倒的な深みが生まれていました。レビューサイトでも4ポイント超えの高評価を叩き出しており、映画館の活況ぶりを見ればそのクオリティは一目瞭然です。時代が変わっても色褪せない、最高に楽しめる続編でした。ぜひ早めの鑑賞をお勧めします。



# 03. 今月の推し紙

今回は渓流の岩肌をモチーフにした、特種東海製紙株式会社様が製造するファンシーペーパー「岩はだ」をご紹介します。



渓流の岩肌をモチーフにしたエンボス加工が特徴の高級ファンシーペーパーです。本物の岩のようにゴツゴツとした質感と、鉱物質をイメージした全18色のカラー展開で、書籍装丁や名刺、パッケージなどによく使われています。写真の「おりべ(緑色)」もその質感がわかりやすくおすすめです。